

様式第 1 号

会 議 録

会 議 の 名 称	平成 2 5 年度 第 2 回所沢市学び改善プロジェクト委員会
開 催 日 時	平成 2 6 年 2 月 1 3 日 (木) 午後 3 時 2 0 分 ~ 午後 4 時 3 5 分
開 催 場 所	所沢市立教育センター セミナーホール
出 席 者 の 氏 名	〔 委員 〕 赤堀侃司白鷗大学教育学部長・教授、塚田幸久小学校長 会長、平塚俊夫中学校長会長、島田高志中学校 P T A 代表、北田 憲一市スポーツ少年団副本部長、斎藤伸壽青少年課副主幹、加藤雪 乃健康づくり支援課主査、橋本浩志社会教育課主査、高橋亘スポ ーツ振興課主査、宮下広子南小学校区こども会育成会元会長、新 妻紀子保護司、小出敦子 N P O 子ども大学代表理事、大寄尚子所 沢第二幼稚園長、藤川岳中学校教諭、藤田恵子小学校教諭
欠 席 者 の 氏 名	木村良孝小学校 P T A 代表 若山芳男スポーツ推進委員会前会 長、竹内和代こども支援課こども相談センター主査、小俣芳彦保 健給食課主査
議 題	1 報告 (1) 今年度の経過 (2) 資料説明 2 協議 (1) これまでの取組と課題について
会 議 資 料	1 第 2 回 学び改善プロジェクト委員会 協議資料 2 学力向上に向けた 3 つの提言と取組 3 所沢市学び改善プロジェクト推進事業について 4 学び改善プロジェクトに係る進捗状況調査の結果概要につい て 5 全国学力・学習状況調査の結果から (学力検査) 6 埼玉県学習状況調査の結果から (学力検査、質問紙調査) 7 平成 2 5 年度 (第 1 期) 「学力向上に向けた 3 つの提言と取 組」における「ノーメディア・チャレンジ」と「早寝・早起き」 チャレンジの取組結果

担 当 部 課 名	学校教育課 電話 0 4 (2 9 9 8) 9 2 3 8 出席者 内藤隆行教育長、川音孝夫学校教育部長、齋藤敏男学校教育部次長兼学校教育課長、沼田芳行学校教育課教育指導担当主幹兼健やか輝き支援室長、出居正之学校教育課指導主事、日下宏之学校教育課指導主事、池之上敦子学校教育課指導主事、本間博学校教育課指導主事
-----------	---

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
司 会 (指導主事)	本日の記録は要点記録とし、発言者は、すべて「委員」として記録する。
	開会
司 会	進行は事務局の出居が担当する。平成 2 5 年度第 2 回所沢市学び改善プロジェクト委員会を開会する。
司 会	委員長より申し上げる。
委員長	第一部に引き続き、第二部の学び改善プロジェクト会議である。先ほど教育長が述べたように、今回最後の委員会になる。また、来年度については新たなスタートである。今回は成果と課題、特に課題等についていろいろな意見をいただき、次の委員会に引き継いでいくという役割がある。いろいろな成果があり、いろいろな取組も活発に行われた。また、この委員会も皆さんの協力で実りのある会議をさせていただいた。大変感謝している。今日も、活発な、遠慮なさらずいろいろな意見を賜り、次回のプロジェクトに引き継ぐと同時に、所沢市の子供達の健全な育成、学力向上等、いろいろな面での向上に役立てられるような会議にしていただけたら有難い。
司 会	ありがとうございました。続いて内藤教育長より挨拶と、本日この場をお借りし、委員の皆様今年度の経過、特に学期制に関わる経緯について説明する。
教育長	推進モデル校の発表をしていただいた。それぞれの学校が創意工夫して取り組んできたことが大変嬉しく思っている。また、こうした委員会が学び改善プロジェクトの方から提言をいただき、それを 5 年間取り組んできた成果だろうと思う。特に 2 3 年度、2 4 年度、2 5 年度が、市としてわずかではあるが一定の予算を組んで研究委託モデル校として、全ての学校で実践をしてきた。その成果を受け、先ほどの挨拶と重なるが、5 年間の成果と教訓にたってさらにこの事業を推進していく。来年度は学び改善プロジェクトについては、ひとまず終了して、来年度はこれを維持、発展させていく観点から新たなプロジェクトを結成し、引き続き学力の向上に取り組んでまいりたいと考えている。

先ほど司会者の方から学期制の話があった。実はこの学び改善プロジェクトの会議の中で、過去、学期制のあり方について議論していただき、一定の報告をいただいた経緯があるので、そのことも踏まえ、この半年、一年の動きについて御報告させていただく。 学期制の問題については、平成２２年１０月「２学期制に係る意識調査」の実施結果や、平成２２年１０月「所沢市立小中学校の２学期制についての公正で客観的な検証を求める請願」が議会において採択されたこと、あるいは現市長の３学期制への移行の公約、あるいは市民からの要望等もあって、教育委員会では、内部としてこの研究を進めてきた。この学び改善プロジェクト委員会においても、平成２３年度から何回かにわたって議論いただいてきた経緯がある。そうした中で、昨年１月、教育委員会会議において、現時点としては平成２５年度以降については、現行のとおりとするということで、一定の結論を教育委員会としても示してきた経緯がある。 しかしながら、児童生徒の基礎的・基本的な学力の獲得、短いスパンでの評価評定の効果の改めて必要性なこと等、また議会や市民からの３学期制復活を望む声もあり、教育委員の体制が変わっていく中で、昨年８月の定例教育委員会会議において、「教育課程の新しい枠組みについて研究せよ」ということが指示された経過がある。 そこで、教育委員会事務局においては、「教育課程の新しい枠組みを考えるプロジェクト会議」を事務局内部に立ち上げ、昨年９月から１１月まで６回にわたって検討してきた。その結果、２学期制の良さを取り入れた新しい枠組みについて研究してきたこともあって、ひとつの今後のあり方として、２学期制の良さを十分踏まえた新たな枠組みとしての３学期制という方向性を教育委員会に報告したところである。 現在、その新しい枠組みとしての３学期制の実施に向けて、諸課題について、様々な観点から事務局内部、あるいは検討委員会等において議論を進めているところである。 本来であれば、学び改善プロジェクト委員会において、こうした経過を報告すべきであったわけであるが、２回目の会議が研究発表を兼ねてこの時期ということが計画されていたこともあって、報告が遅れてしまったが、そうした経過の中で、現在新たな枠組みとしての３学期制への方向性で諸課題を検討中ということでご理解願いたいと思う。 先ほど委員長から話があった、今日の会議においてはこれまでの学び改善プロジェクト推進事業の全体を総括する観点で、成果、取組を引き継いで、来年度以降につなげていきたいという観点から忌憚のない審議をお願いしたい。委員長、よろしくお願いします。

事務局	本日の協議に先立って、事前に送付した資料の内容について、簡単に確認させていただく。 事前に送付したもの、次第 協議資料 1 枚ずつのもの。 資料 1 から 6 をとじたもの。そちらをみていただく。 まず、資料の 3 ページをご覧ください。「学び改善プロジェクトに係る進捗状況調査の結果概要について」、これは 24 年度に引き続き、今年度も昨年 10 月に、学校・家庭・地域でのそれぞれの取組について各学校にアンケート調査したものをまとめたものである。 3 ページ上段の、1 時間の学習目標の提示については、小中全体で約 75 % の学校が概ね達成しているとの回答であった。特に小学校では「目標があるかないか」ということではなく、「学習目標」の文言として適切なものになっているかどうか、例えば「課題」という言葉と「問題」という言葉の意味の使い分けと、課題としての質の向上についてまで入り込んだ様子がわかった。しかし、中学校においては、課題の提示について定着に課題がある現実もあり、今後も各校での努力を見届けていく。 中ほど 2 番目、考えを引き出す発問の工夫については、今年度初めて聞き取りを実施したが、まだまだ課題があることが数字の上でもはっきりした。 3 番目、家庭における取組の様子については、小学校においては、昨年に比べて達成度が上がったものの、大きな課題がある。学校への聞き取りなので、家庭での取組、生活習慣の見直しについて学校としてどうかかわっているか、子供の様子から家庭の取組の様子がどうかといった観点からの回答になっていると考えられる。 4 ページをご覧ください、各学校で行っている効果的な取組を掲載させていただいている。 続いて、地域行事への児童生徒の参加状況についてである。こちらは、1 学期終了時点での児童生徒の延べ参加人数は、昨年に比べて大幅に増加している。平成 23 年度には、1 年間で約 2 万 4 千人だったので、地域行事に関わる子供達の数、2 倍近くになった。取組についても、参加した児童に感想を書かせ、お互いに交流したりなどの振り返りの活動や、教師の参加の増加、あるいは保護者のボランティア参加等、地域に出て行き、何を学ぶかと言った視点や、参加の裾野が広がっている取組についても報告があった。 続いて、5 ページをご覧ください。各学校から寄せられた成果と課題についてまとめさせていただいた。成果として一番多くの学校が上げたのは、教師の指導法の改善につながったという点である。3 年間で全小中学校がモデル校として研究したこと、市全体のレベルアップにつながったものとする。続いては児童生徒の学習意欲、学力の向上に関する回答である。学校によっ
-----	---

	ては、授業についてのアンケート調査を行い、児童生徒の側からの評価に取り組んだ学校もあった。その他、家庭、地域とのかかわり、小中の連携に関する成果があげられた。同じく 5 ページ下の部分から 6 ページにかけての課題については、大きく 2 点、学校で教師がどう指導法を改善し、子供達に確かな学力をつける授業ができるかという教師の仕事の本質的な部分に関する課題と、生活習慣や家庭学習の一層の定着等、学力向上に向けては、家庭での子供達の生活、学習が重要であるという部分である。その他、小中の、また地域との一層の連携についてや、成果の検証方法に関する指摘もあった。 続いて、各種学力検査の結果について説明する。大きく、全国学力・学習状況調査と、埼玉県学習状況調査の結果からお話する。 まず、県の調査からお話する。資料の 10 ページをご覧ください。こちらは、毎年所沢市の全ての小学校 5 年生、中学校 2 年生を対象に実施されている埼玉県の学習状況調査の結果である。資料の 5 になる。今年度からさかのぼって 4 年間、平成 22 年度からの結果を記載した。一番として、始めに全体的な傾向について書かせていただいた。小学校においては、今年度については、大きく課題が残る結果であったが、ここ 4 年間の推移を見ると、国語、算数については、県平均を上回り比較的安定していること、中学校においては、国語、数学、英語、特に数学、英語については安定して良い成果が出ていることがわかる。しかしながら、中学校の社会と理科、社会については改善が見られるが、特に中学校の理科については課題がある。 続いて 2 番、平成 22 年度の小学校 5 年生。この子達は、平成 25 年度、今年中学校 2 年生になっているので、同じ子供達の結果の比較ということで掲載させていただいた。特に数学について伸びが見られる点、社会については改善傾向がある点が見られるが、やはり中学校理科については大きな課題があるところが見て取れる。 3 番、4 番については、3 番については毎年の小学校 5 年生の結果、4 番については毎年の中学校 2 年生の結果についてのせた。それぞれよくできているところと、課題となるところが見て取れる。 続いて 11 ページをご覧ください。こちらは学習や生活の状況について児童生徒に質問の形で実施した調査の結果から本委員会の取組に関連があるものをいくつかピックアップして掲載した。朝食のこと、あいさつの件、ノーメディア・チャレンジとも関係すると思うが読書の件、あとは学習意欲と関係するが勉強が好きだ、という答えた子供の割合として資料にのせた。 続いて、全国学力・学習状況調査の結果について簡単にお話する。 ページは戻るが、資料の 7 ページをご覧ください。資料の 4 である。全国の学力テストの結果である。国語と算数・数学について学力検査を実施している。
--	--

	A・Bとあるのは、Aが主に知識に関する問題、Bが知識理解したものを活用するという活用に関する問題である。おおざっぱな表現になってしまうが、Aの方が基本的な問題、Bの方が応用に関する問題といった違いがある。 全国のテストについては、平成22年度と平成24年度については、抽出校での実施ということで、全校で実施していない。平成23年度については東日本大震災の関係でテスト自体実施していないので、前回市内の全部の児童生徒が受検したのは平成21年度にさかのぼることになる。これは、平成21年度と本年度の結果を並べたものを掲載した。グラフについては縦のメモリが0の部分というのが全国平均の位置になる。そうすると、今年度については、小学校中学校で二つの教科で全部で8項目ABそれぞれあるので、8項目のうち全国平均に届かなかったものは、小学校国語のB問題、活用に関する問題であった。残りは全国平均よりも上回っていた。抽出ではあるが、平成24年度については全国の平均よりも8項目全て市の平均が国の平均、県の平均を上回っていた。グラフを見てわかるように、ややグラフが右下がりになってしまっている。全国平均との差が少し小さくなってしまったということで、本年度については課題が残る結果となっている。 続いて8ページである。こちらは昨年7月の第一回の会議のときに24年度との比較ということで参考で出したものの、同じもの平成25年度との比較のグラフということで、観点別の正答率の経年変化と無解答率、空欄のまま出してしまう、その率についてのグラフになる。やはり、観点別正答率、無解答率との差、それぞれグラフが右に下がってしまう部分があり、全国との差が縮まってしまっていたりとか、課題が残る結果となっている。ただ、今後今年度の結果を受けとめたとき、それが本年度の児童生徒の特徴としてあらわれたものか、あるいは、今後数年にわたって、市の児童生徒の課題になっているものなのか、という見極めを次年度以降の結果を参考にしながら、分析し、考えていきたいと考えている。 続いて9ページである。こちらは、全国の学力テストにおける質問紙調査の中から結果を抜粋したものである。全部で3つ大きくのせてある。家庭における勉強時間の習慣化については、小中とも見ていただいている通り、全体的には改善の方向にある。中段は、携帯電話、テレビゲームについてである。やはり、テレビゲーム、携帯電話の使用時間については増加しているを見て取れる。携帯電話については、持っていないと答えている子供が、児童生徒が減少しているので、益々普及が進んでいることが伺える。しかしながら、約束を守って使っている、という児童生徒の数が増加しており、約束を守って使用する意識が高まっていることがわかる。下の段、地域行事の参加についても、平成21年度より伸びが見られる。以上である。なお、これら
--	---

	の学力検査の具体的数値については、公開をしていないものである。取扱いについては十分に注意願う。 最後になるが、１２ページからは、本年度前期のノーメディア・チャレンジの結果について掲載させていただいた。以上、資料についての説明をさせていただいた。
司 会	それでは、これから先、委員長に引継ぎを願って協議を進めていただく。
委員長	資料№１からそれぞれ全国学力、あるいは県との比較データ、アンケートを含めてわかりやすく説明いただいた。これから協議になる。だいたいの全体の傾向の課題や、あるいは成果というのはデータ上よく教えてもらったのでだいたいわかったが、個々の、それぞれのこういう点はどういったことであるとか、こんな風に思うとか大変個人的な印象でも結構なので、忌憚のない意見をいただき、そして、それを次期のプロジェクトの方に申し送るという形にさせていただくので、どなたでも結構であるので手を上げて発言をいただきたい。いかがか。
委 員	前回第１回は所用があって参加出来ず、大変申し訳ない。私のほうは、当初からスポーツ少年団から参加させていただいているということで、やはり学びというかたちの中でも、学力というよりは、むしろ体力的な面であるとか、スポーツを通じた学びというようなものを、何か協力というか提言、話ができたらということで参加させていただいている。今回の中でも、学校の方で取り組むものというものは、どうしても学力を向上させようというものに今日の発表を見ていてもあるかな、体力の向上であるとか、そういったものになかなか学校の方の目が向いている傾向があまり感じられないな、というのが、学びイコール学力というところにいってしまうのがちょっと残念である。やはり、もっと子供の体力の向上的なものもひとつの学びの中に含まれるのではないかと感じるところである。そういった中で、スポーツ少年団というのは、社会体育を通じて子供達の体力向上に寄与しているというのを自負している。先ほど教育長から話があったとおり、二学期制、いわゆる土曜日が休みになったおかげで、社会体育の活動の曜日が増えたというのは、大変我々とするところとありがたいというところで、土曜、日曜というのが、学校ではない地域で子供達を面倒みていこうと。これが、もし三学期制やら今全国的に広がっている土曜日がもう一度学校の活動が入ってくる、というかたちになると、子供達がまた社会活動だとか社会教育、社会体育的な活動の時間がもっともっと少なくなっていくという部分では、少し懸念しているところである。やはり、我々とすれば、今までの二学期制にともなって、週５日制でこの土曜日曜をつかって、学校では学べないことを少しでも社会性であるとか、集団行動における子供達の社会性を向上させていこうと

	ということで頑張ってきたという自負があるので、そういった点では今後の学校の学期制の検討であるとか、土曜日がおのずと入ってこざるをえないのではないかと、思っている。学習指導要領の改訂等で授業時数の関係でやむをえないことだとは思いますが、所沢市がもし土曜日の授業が始められるのであれば、せめて他の市で見られるように、一律第二土曜日は全校学校はやっているとか、というようなかたちにしてもらいたい。社会教育をやっている者すると、市内の子供達が必ず第二土曜日は学校があるもんだ、ということになるが、学校ごとにばらばらだとそういった活動もばらばらになってきてしまう。もし、土曜日等々今後学校の授業が入っていく場合には、その辺も検討してもらおうとありがたい。
委員長	スポーツという立場から、土曜日の一貫した取組等の要望等があった。スポーツの結果もデータとしてはあったか。簡潔に言うと、この5年間はどうかだったか。以前、事務局に説明してもらったものがあったと思う。スポーツの立場からもっと体力の向上へという要望であった。他にどうぞ。何でも結構である。
委員	私は、子ども大学ところざわに関わっているので、月に一回土曜日活動している。スポーツ少年団の委員が述べたように、確かに三学期制になって、土曜日どのようなかたちになるかわからないが、子供達が学校に戻るということになったら、私達の活動自体もいろいろと考えていかなければいけないと思っている。ただ、私達が考えているのは、やはり子供ありきである。子供達が三学期制に戻ることによって、それがベストな状況で、勉強ができるということであれば、それは大変歓迎すべきこと、万々歳だと思っている。それに合わせて私達の活動も柔軟に変更はさせていこうかと考えている。今回、私たちの子ども大学の活動で、非常に顕著に見られたいいことがありまして、それはぜひこの場で御報告させていただきたいと思っている。今日の発表でも、言語活動とか諸々あったが、この学び改善プロジェクト委員会の成果と課題というところでいうと、ちょうど地域にあたると思うが、私たちの活動の中で子供達が自主的に、自分たちで企画して考えていく、実行委員会形式のものを一部取り入れていった。そうしたら、これがものの見事に成功した。私達大人が追いつかないくらい、子供達が自主的に動いた。これはよく聞くと、学校での特別活動の成果が、とてもいい形で、私たちの子ども大学で出てきたようである。私達も、小学生、小学生だからと見ていたが、なかなか中学生、高校生に劣らないくらいの素晴らしいアイディアと実行力でもって動いたので、学校は確かに、勉強以外にもこのような特別活動で着実に力が身につけているんだな、というのを実感した一年であった。
委員長	学力以外でも非常に実行力というか、そういうものが身についていると大

	変嬉しい報告をいただいた。そのような成果、及びぜひこれは次年度にぜひこんな内容をやっていただきたいという期待も含めて発言いただきたい。他にはいかがか。
委 員	では、先ほどの体力のことについてお話する。中学校体育、私は中学なので、体育連盟が毎年体力の課題を出している。今、中学校では、特にハンドボール投げ、ボールを投げるというのが非常に課題になっている。野球離れも原因にあるかと思うが、その記録が全国平均よりも埼玉県は低いというのがある。そこで、学校ではそれを向上させるために、いろいろ努力をしている。それから、握力がちょっと低いという課題がある。この二つの種目について、上げていこうということをやっている。体力については、どの学校も体育科を中心に取り組んでいる。中学校では、一時期ちょっと体力の低下が叫ばれていたが、そこから少しずつ向上していった、所沢市は、県平均よりも体力はかなり高いほうになってきている、というのが現状である。しかし、ハンドボール投げについては、まだまだ課題が残る。小学校でもボールを投げて遊ぶ機会が減っていると思う。昔はろく虫だとか、ドッチボールとか、外に出ればそうだったのが、最近はサッカーに変わってきているところもあるので、そのあたりをもっと授業を計画的にやらないと上がっていきかないのかな、というところである。
委員長	他にどうぞ。いかがか。
委 員	委員の発言を伺って、学校の子供達の、スポーツ少年団に入っている子供達の様子をお伝えしたい。時間の使い方がとても上手で、さらに集中力がとてもあってということなのだろう。学校の勉強の、いわゆる勉強、机上の勉強もとてもストイックにやっていく様子も6年生に見られる。高学年を受け持つことが多いのだが、クラスが変わってもそのような傾向はしっかりあるので、私は、両立している時間の使い方が豊かな子は、これからとても生きる力もついていくのだと称えていくようにしている。6年生を卒業する時に表彰を受ける子がいるのだが、文武両道で、スポーツも頑張り、そして学校のことも手を抜かないでやっていこうと、しっかり照らして、そこへ近づいていこうと先生方にもお伝えしている。 学校の方に戻るが、では私達の仕事として、基礎基本はもうだいたいついていていると思うが、今度は学力テストの国語B、算数Bみたいな問題、手ごわい、本当に出会ったことがないような問題に対しても諦めずに答えられる子供達を育てていくことが大事ということを職場の中でも話している。先生方もぜひB問題を解いてください、中学校の方のB問題も解いてみてくださいと言っている。教師がまず、こういう力が国として求められているんだ、ということを目から解いてみて、ではどのように授業改善をしていくのか、とい

	うことを意識するだけでも授業は変わっていくと思う。自分の中でもそれが課題である。 なお、１２月の末に出た全国・学力学習状況調査のクロス集計の結果からも、見通し、振り返り学習活動を行っている授業を重ねている県というのは、Ｂ問題の解答率が大変高かったと明示されたので、これは所沢でやっている今回のプロジェクトのそのままだな、と思った。 では、もう一歩進んでいくとしたら、先ほど委員からお話があった特活等を中心とした言語活動の話合い活動の充実と、地域との連携を図るとしたら、各学校の特色を生かした総合的な学習の時間の一層の充実というところはアタックしていいところなのではないかと思う。地域の教育力、家庭との連携を巻き込んで、総合的に授業をつくっていく教員の力が、これからは求められていくと思う。私たちも教科のプロでありながらも、生活、総合の力もつけていく「ハイブリッドな教員」を目指していきたいと思っている。
委員長	大変いい意見を言っていた。その通りだろうと思う。他にどうぞ。ご意見賜りたい。
委 員	教員の立場でお二人から話があったが、私は職としてお話をさせていただきたいと思う。この３年間の取組で、細かいことは別として、粗く言わせていただくと、学力向上に結び付いたな、ということは一つあると思う。私は、その要因の一つとして、小中の垣根が取れたことが非常に大きいと思う。今日の報告を聞いても、例えば、私どもの学校の教員、中学校へ授業を参観等させていただくことや、その逆もある。一方通行ではない。こういう職員の意識を変えたことが今回のプロジェクトの大きな意味の一つであると、私は捉えている。もう一方で、地域とのつながり、先ほど事務局のほうから参加人数、延べ人数が増えたということも、これも若い職員が増えてきたこともあるが、非常に大きな地域とのつながり、地域立の学校ということを踏まえながら変わってきたことは、私は非常に大きな取組の成果だと思っている。一つの区切りとしてここで今までの取組の仕方をやや方向転換という話が教育長から話があったが、やはり学校現場とすると、二人の教員の委員からあったように、私どもの資質の向上が維持・向上できなければ、皆さんに説得力のある学力向上の成果やその数値化、この学力の量的な成果の表し方にはやや見解が異なるところはあるが、この教員の意識改革、向上というものを常にもっていないと、また元に戻ってしまう可能性が大きいので、プロジェクトについては継続的に進めていきたい、と私は考える。 また、先ほどの特別活動の話は、私は大変ありがたいと思っている。言語活動という言葉が、今日も話題にあがっていたが、いろいろな方面でコミュニケーション能力の育成が言われている。特別活動の領域のいても、週に一

	度の学級活動の時間に、学級会という会議をもち話し合い活動を行う中で、折り合いをつける話し合いという指導法がある。こういう方法を子供達が学んでいかないと、社会人になった時に、このような場が継続できない。そこで、例えば自治会に行けば、輪番で司会や記録をやったりとかの素地は、義務教育でやるはずである。そのような力を先ほど体育畑の関係の委員からもあったように、いわゆる数値化の学力だけではなくて、もうちょっと幅を広く捉えるということを求めていく委員会であってほしいという気持ちが私はある。どうしても数値化ばかり捉えられてしまうと、その分が弱くなってしまう。では、子供に話し合いが好きですか、例えばそのようなアンケートをとって、言える子はただ単に好きです、という評価をするかもしれない。こうやって、話し合いの中でよくよく聞いて、自分で一方的に発表はしないが、でも何かを決めてやろうと思った時に、その力を発揮できる、数値化で表せないような学力、そういうものについても、私はぜひこの委員会の中で進めていく必要があると考える。このことは、新しい子供達の力、社会に出て絶対必要な力だと私は捉え、いろいろな場面で言わせていただいている。そのようなことも含めながら進めていただけると大変ありがたいと思っている。
委員長	貴重なご意見をいただきありがとうございます。他にいかがか。
委員	私は去年から委員を務め、今回で終わりということで、肩の荷が下りたと思っている。その中で感じたことだが、去年からも私の発言の中で、学力ってなんだ、ということは前回も述べたが、いろいろ学力は勉強だけじゃない、というのはこの委員会で教えてもらった。先ほど委員が述べたように、発表とか、そういったものができるとか好きとか、そういったものも学力なんだ、ということは改めて認識したところである。ただ、やはり今日の発表の中でも各学校の先生たちが成果として学力が向上した、と述べており、確かに学力は向上したと思う。いろいろな取組をして。ただ、素人からすると、向上したというのが、やはりよくわからない。したと言っているのだから、絶対しているのだと思うのだが。そういった中で、この委員会等で学力の定義というか、ある程度は何かつくらないと、目標でこのくらい増やしましょうと数値ではないということもよくわかるのではあるが、例えば発言を今までしていなかった子が何回するようになったとか、回数等でもいいのだが、何かないとわからないのではないかと。他の保護者が見たときに、わからないのではないかと、というのが素人ながら感じた。次のプロジェクトでは、何か定義付けるとか、或いは各学校で取り組んだいい学力が向上したといったことが、他の学校にフィードバックされているのかどうか、あまり読めなかった。委嘱事業ではないから自分のところの新しい取組ということでされたと思うのだが、そういったものがあってもよいのではないかと感じた。

委員長	ありがとう。伝達可能なような、指標というか、そういうもののご提案があった。 今、いろいろなご意見をいただき、学力、いわゆる目に見える数値化できる学力と、コミュニケーション能力や実行力やそういった目に見えない学力というものの必要性もお話していただいた。また、教員の意識も、これも成果として非常に重要な成果であったというご意見もいただいた。また、地域のもっている力、これも大変重要で、それは見えない学力なのだが、実はこの3年間、5年間等で向上したのではないか、というご意見もいただいている。他にいかがか。
委 員	私は社会教育の仕事をしています、いろいろな課で主催や共催やいろいろな事業をしているが、そこで気づいたことがある。やはり、子供達、参加者で住み分けができています。例えば、スポーツ少年団の子は、先ほど委員が述べたように、子ども大学やサマースクール、かるた大会等は参加してこない。また、塾等行っている子も忙しい。スポーツ少年団や塾等に通っていない子が社会教育課で行っている事業に参加してくる子が多い。実際、名前を見ると、この子はこの前に参加した子だな、と気がつくことがある。私も子供が野球をやっているもので、なかなか自分が担当している講座等に出られない一人の親でもある。市長がよく話しているが、いろいろなことを小学生のうちに体験させたい、もっともっと自由な時間を、と市長は話している。小学生のうちであれば、いろいろな経験をさせてあげられたらいいな、と思うが、どちらか、という選択肢しかない。また、社会教育の仕事をしていると、本当はもっといろいろな子供に参加してもらいたいのだが、出来ない現状がある。社会教育の事業に参加することで、コミュニケーションや、スポーツ少年団の技術の向上ということも大事なことはあるが、社会教育の例えばサマースクールの中で得ること、かるた大会で得ること等もあると思うので、そういう選択肢を広まって、例えばこの日は市をあげてこの行事に参加する、という雰囲気が出てくると、ということを感じるのが時々ある。
委員長	見えないけれど、大変重要な多様な力があるので、社会活動等にも参加するような仕組みがもっと必要ではないか、というご意見だったと思う。どうぞ、他にもご意見賜りたい。
委 員	今、委員から話があったが、テレビのニュースで、難関大学に受かった子供達は、子供のときにすごくよく遊んでいた、というようなことを聞いた。子供時代にその年齢に合った遊びをする、思いっきり遊ぶということは、とても大事で、いろいろな経験を通してすることは、本当に大事なことだと思う。今の子供達に果たしてそのような時間があるのか、と考えると、放課後やお休みの日に、子供達が遊びの中で自分の意見を伝えることや、相手の意

	見を聞いて何か解決方法を見つけていく、という今日の発表にあった先生たちの学習を通じて目指していることと通じるものが、遊びの中にはあると思う。実際どうしたらいいかわからないが、やはり子供は遊ぶということが大事である。私が小学校の PTA 会長をしている時に、一年生に入学式のお話をした時に、学校というのは子供の「子」という字が入っている、隠れているということを言った。学ぶという字にも子供の「子」があって、遊ぶという字にも子供の「子」があって、学校でよく遊んで、よく学びましょうねと言った。「よく遊び、よく学べ」と遊びが先にあるので、子供達にはたくさん遊んでほしいと感じている。またもう一つ、オリンピックで十代の若者が活躍していて、その子達の小さい時、自分では練習会場に行くことができないので、親がつきっきりで熱心に付き添って、子供の夢と一緒に追いかけていたということに最近感じるのだが、今の親は子供にこうなってほしい、という親の思いを実現するのではなく、子供がこうしたい、ということをサポートすることが親の役目かと、自分のことも含めて感じた。PTA 等いろいろな場を通してそういうことが伝わっていけたらと思った。
委員長	お話いただきありがとうございます。親の役割もこのプロジェクトでは非常に重要だということで、地域と学校との連携ということもやっている。
委員	連合 PTA に関わっている。協議資料の中にあいさつと地域行事の参加というのがあるが、地域から PTA によく言われることであるが、あいさつというところで、11ページの資料にあるとおり、子供達は、小学生は特に元気にあいさつはしてくれるし、中学生も入った当時は照れくさそうにはしているが、だんだん慣れてきてあいさつはしっかりしてくれる。よく言われるのは、保護者のほうがあいさつがない、というのがよくある。もう一つ言われたのが、教員もあいさつをしてくれる人とくれない人がはっきり分かれてしまっていると。子供達にあいさつをしろと言っている教員が、非常に問題がある、という話を受けた。耳の痛い話ではあるが。 地域への行事参加であるが、小学校のお母様方は子供と一緒に出て、比較的多めに参加してくれるが、中学校は学校側からボランティアが出て、親は後から出るかたちになるので、なかなか足が向かない。地域に中学校の親の顔が見えないとよく言われる。中学校の親というのは、実は非常に忙しくて、小学校もそうなのだろうが、昨今、親の収入が上がらないので、お母様方がパートへ出てしまって、その時間をお金に換えているという状況がある。塾代もいっぱいかかり、仕方のないことなのかもしれないのだが、やはり子供を見てくれている地域のほうにも参加をしないとはいけないんだぞ、と地域のほうからお叱りをよく受ける。 ここで言いたいのは、家庭の力の必要性というのは、どうしても子どもに

	跳ね返っていくので、ノーメディア・チャレンジにもあるが、家庭で監視と いうのはいけないのだが、何を見ているのか、メディアを見ているのは何 を見ているのか、内容を確認することも非常に必要だと思う。メディアを見る ということは、我々大人がメディアをつくって発信しているので、見るなと いうことはなかなか言いづらいが、そのメディアについて、私は子供には、 メディアで時間つぶしをするなど言っている。時間をつぶしてメディアを見 るようだったら、他の勉強なり読書なり友達と遊びに行ったほうが倍はいい 感じになるのではないかと、思っている。それも親の役目で、見守るとい うことが大切だと思う。とにかく家庭の力が一番ベースになると私は信じてい る。
委 員	先ほど遊びの中で学ぶということがあって、幼稚園としたら大変心強いと 思ったわけだが、小学校になるとすぐに勉強ということになる。そこが今ま で遊んでいたのが勉強になるということで、保護者の方もそのギャップに焦 ったりするのかな、ということがよくわかる。幼稚園としたら、遊びでどん なことを学んでいるのかということ、もっとしっかりアピールしていかな くてはいけないと思う。幼稚園の子供達は、4月から小学校生活が始まるわ けだが、その環境の中で、自分の力で生活を進めていく、いかなければなら ないわけだが、段々家庭環境が複雑になってきており、皆が同じ気持ちでス タートできるか、といったらそうでもないわけである。やはり家庭の力とい うのがそこには大きいものがあると思う。そこを少しでも埋めるためにも、 幼稚園としたら小学校と連携をとってその子達のもっている問題を軽減して あげられるように、してあげること一つであるし、地域の方たちの力をお 借りすることも一つあるだろうと思う。そのようにして、学校生活がみんな 気持ちよくスタートできるようにしてあげたいと思っている。
委 員	地域と学校とが連携をしているので、地域の人たちの目も生徒たちに向い てきている成果があると思う。それで、犯罪非行も完全には無くなってはい ないが、とても少なくなっているように思われる。保護観察の件数も少 なくなっているようで、とてもいい傾向だと思う。子供達も自然にあいさ つをしてくるようになっていし、いい関係の雰囲気のできているの ではないかと感じている。 あと学業のほうであるが、なんで理科がこんなにいつもずっと下がってい るのか、ということにとて疑問があった。社会は今ひとつで、中学校に関 してではあるが、理科と社会がやはり良くないというのは、中学校2年なの で、塾ではこれをやっていないからなのか、興味がもてない授業なのか、何 が原因なのかこれを見て感じている。数学と英語はかなり伸びているので。 その辺りは向上しているのだが、なぜかと疑問に感じていた。ありがとう。

委 員	土曜日に休業をやるということについてであるが、私は狭山市であるが、第二土曜日が学校であるが、中学校くらいになると、高校の学校説明会であるとか、そういうのが普通にその日と重なったりし、大部分はまだ土曜日が休みなので、行事ごとがそういったときにあるので、できればそういったことは埼玉県内で統一してもらったほうがすごく助かる。例えば、所沢が第一だったりすると、狭山が第二だったり、そういうのは混乱してしまうのではないかとこのところがある。近隣で統一してもらったほうがありがたい。
委 員	学び改善プロジェクトの中で、早寝・早起き・朝ごはんということで、朝ごはんを食べる児童が98%くらいでしたか、かなり高い率ができていて、これは生活リズムや早寝の習慣を学校側も家庭も頑張っているところが素晴らしいと思った。そこでもう一步、もし次の段階に行かれるとしたら、あなたが食べているものがあなたなのよ、という言葉がある。食べているもので体ができているので、朝食の内容、ただこれだけというのではなく、次のプラスαのものを、ご飯だけとかバナナだけではなくて、何かもう一つ付けるようなものをつけていただけたらと思っている。保健センターのそういった観点で食育パンフレットというものを作成して、小学校向けに作成しているところなので、そういったものを活用いただけたらと思う。また、先ほどから、教科の学力とともに生きる力ということで、いろいろな話題が出ていたが、私も思春期のことや保健に関する中で、学校の保健の先生方はとても知識を上手に伝えてくださっていて、それが、お前たばこ吸おうよ、という危機に迫ったときに、自分をきちんと守るための力というものは、小学校の皆さん達が今、総合や特活で取り組んでいる「自分はこう思う」や自分を守るコミュニケーションの力がとても大事であると考えている。そして、ネット依存ということで昨今は自分中心のコミュニケーションが増えてしまう、ライン等。そういった自分中心の手段をもってしまう前に、コミュニケーションをとることや、自分の弱さや自分をわかってもらったり相手をわかることについて、遊び等を通してコミュニケーション力、ひいては生きる力をつけていってほしいな、と思う。何か媒介を通すと相手の顔や表情無しのコミュニケーションがどんどんできるような現実も、中学、高校からなっているので、そうなる前に、また、仮にそうなったとしても、やはり学校が修正できる場であるというのは、この学び改善プロジェクトに参加させていただいて強く感じたところである。今後とも堂々と続けていただきたいと思います。
副委員長	まず一つは、学び改善プロジェクトの推進事業に提言があってから5年、研究モデル校としては3年で、ここで一区切りということだが、この事業によって教員、子ども達、家庭、地域、特に教員については意識、知識より意識という言葉があるが、意識が高まったのではないかなと思う。常に今日の発

	表を見ていてもわかるが、学校が常にそれを意識して、授業実践や家庭への働きかけ、地域との交流等に意を注いで取り組んできたので、私は意識化という点で大きな成果がまずあったのではと思う。知識があっても意識が働かないと、結果は生まれてこないから、まずは一番そこが私から見ると大きかったと考える。 それから、学び改善で言っている学力というのは、広い意味での学力なので、確かな学力、豊かな心、体力、もちろん食育といったものも含めて、3つのバランスがとれた力、生きる力、生き抜く力といったものが学び改善で言っている学力ということなのだろうと思う。そのような意味で、特別活動も含めて、地域のいろいろな活動も含めて、全て関わってくるわけであるが、その点、逆に言えば、数値化するのが難しい目に見えない学力のような部分があるわけだが、そういう取組を大事にして、それをもっと発展させる、進化させるような方向で今後考えていくのがいいのかなと考える。 今は学校も総合力の時代といわれているが、学校の総合力、あるいは家族の総合力とか地域の総合力とか、そういうものがお互いにいい意味で連鎖して高まっていくのがいいのかなと思うので、来年度以降、もしまたいろいろな事業を事務局のほうでも考えられていると思うが、今年の成果と課題を踏まえて、何か焦点化しながら取り組んでいかれるのが自分はいいいと考える。学校は今、たくさんのことを持ち込まれる傾向があるので、それを部分的に見ると各論としては正しいのだが、それを全部いいからといって受けていると收拾がつかない状況もあるので、それを考えるとあまり欲張りすぎないで、どういうところをポイントにおいて、そこ入れをしていけば変わっていくか、一点波及ではないが、そのようなことに留意しながら、今までやってきた学び改善の事業をさらに進化させていくという風にしていただけたら、学校としても大変ありがたいと思う。
委員長	ありがとう。副委員長のほうで、ほぼ総括的な、全体の共通項はその通りかなと思った。私の感じたことであるが、全体をまとめることはしないし、事務局のほうで今の意見等をまとめていただけたらと思うのだが、今回、例えばノーメディア・チャレンジ等わかりやすいキャッチフレーズがあったと思う。やはりこれが浸透するためには、所沢市全体の学校に浸透していくためには、やはりわかりやすい何か標語なりキャッチフレーズを次期のプロジェクトでも考えていただけたら、我々使いやすいものだから良いと思う。私の近所でもそんなキャッチフレーズを聞いたことがあるので、たぶん、そのようにすると浸透しやすいのではないかと一点感じたところである。 それから二点目は、これは先ほどスポーツでもあるいろいろな取組でもそんなことを話していたが、時間について、今の小中学生結構忙しいのだ

	と思う。私の感じだと、遊びであろうと、それから勉強であろうと部活であろうと、たくさん自分を表現している子供に、やはり生き生きとして進んでいると思う。メディアの使い方も、いろいろなものを見ていると、時間を持て余し、自分がどこに向かっているのかわからない子供は、やはりどこかおかしい道に進んだりすることもある。という点で、やはり大切に時間を使おうというような、私は学生にそんなことを言っていることもあるので、ぜひ何か、そういう使い方というものを、うまく表現できないが、もっと、なんというか、時間を大切につかう学生というのは、人生をととても大切に生きているような感じがする。ただただしている人というのは、やっぱり全体がただただ感じるがあるので、正しい、有効な使い方もあるかな、と個人的に思っていた。 いずれにしても、本年度というか、実質的には3年間の指定で、全部の学校が研究をしていただいて、非常に、本当に真摯に取り組んでくれたのではないかな、と思った。そういった点では誇っていいことだろうと思っている。それを踏まえながら、新しいチャレンジをまた、平成26年度からつくっていただければ子どもは大変いいプロジェクトに参加させていただいたということで、感謝している。宜しくお願ひしたいと思っている。私のほうの話で、もう一巡と思ったらもう時間が丁度4時半になってしまったので、これで終わらせていただいて、協議のほうは終わらせていただきたいと思ったので、司会にバトンタッチさせていただく。宜しくお願ひしたい。
司 会	教育長より謝辞を申し上げる。
教育長	限られた時間ではあったが、それぞれの立場の実践を反映した、大変貴重な意見をいただいた。家庭教育、PTA の活動の中で、もっともっと小学生は遊んだほうがいい。また、社会教育の人たちのほうからは、いろいろな体験をさせたい、という話もあった。また、子ども大学のほうからも、いろいろな活動を、判断力をつけていきたい。先生方からは意識改革が相当進んだということで、それぞれ大変貴重なご意見をいただいた。副会長からも話があったように、子どもはこの成果と課題をしっかり踏まえて、同じことを繰り返すようでも、螺旋的に発展するというか、行ったり来たりするようだけれど、山登りのスイッチバックのようにしたい、いきたいというように考えている。 冒頭、学期制に絡んで、子どもは10年前の三学期制へ戻すという気はない。二学期制のよさを生かした新たな枠組みの研究をしたい。それと、一律に何か教育委員会で決めて押し付けるのではなくて、やはり地域の実態もあるので、各学校長中心に進めて行きたいと思っている。ただ、いろいろ土曜

	日や同じほうが仕事がやりやすいというような話を聞くと、難しいなと思ったけれど、具体的なものについては、これからも皆さんの意見を聞きながら丁寧に進めてまいりたいと思う。 これまで学び改善プロジェクトを支えていただきまして、たいへんありがたく思っている。これを踏まえて、来年度以降もさらに成果と教訓を踏まえて、基本的には確かな学力というものを、先ほど委員長が話したように、数値化できる領域、できない領域。確かな学力、生き抜く力。それを支える体力。この三つの観点から進めていくといったようなことは、基本的には全く変わることはないし、後退させるつもりもない。これをさらに発展させてまいりたいと思っている。本日は大変ありがとうございました。
司 会	以上で、平成25年度所沢市学び改善プロジェクト委員会を閉会とする。